

TOKACHI
アイド
19
本社編集局

劇中であいさつする森理事長(中央)



認知症予防について知ってもらおうと11月25日、学習療法地域交流会(社会福祉法人光寿会主催)が帯広

劇を通して介護学ぶ

光寿会が学習療法交流会

市内のとかちプラザで開かれた。

今回で20回目を迎え、約300人が訪れた。「ホントですか!? 介護」と題し、テレビの討論番組をモチーフに職員たちが介護劇を披露。光寿会の森光弘理事長が劇中に現れ、「今年は北海道150年。北の介護の町をデザインし、地域のまちづくりを進めていきたい」とあいさつした。

交流会ではほかに、新聞のコラムを声に出して読むと認知症予防になるなど身近で役立つ情報を紹介。認知症予防の体操では、ステージの男性指導員の動きをまね、参加者が熱心に手や指を動かした。



▲ニューアルバム「故郷/Hc」を手にする(左から)曾山浦島さん、小野さん、三塚

▼浦島さん撮影のハルニレのジャケットを彩るニューア



市内の主婦斎藤タツエさん(70代)は「今年も来て良かった」と話した。

光寿会は、コープさっぽろベルデ文化教室で開いている「脳の健康教室」学習

サポーター(ボランティア)を募集中。詳しい問い合わせは光寿会本部(0155・58・6500、担当・遠藤さん)へ。

(馬淵智子通信員)

小さな秋

葛西

えーっ、何、なに？
いつもの定位置に座って新聞を
読んでいる目の端を、黒と白のも
のがサアッと落ちていった。
何だろう。慌てて立ち上がった
けれど、もしかしたら鳥？とひら
めいたから、そっとガラス戸に
近づいてのぞいた目の前に、や
つぱり…。ペラ
ンダの鉄の細い
棧(さん)に、
しっかりとつか
まっているアカ
ゲラがいた。

それにしても、でも、ちゃんとつ赤な帽子をかぶって、ロキョロと周りを回っている私ともなう、そっと離れたところから、カメラを構えて、私を撮っています。「P」にしたと思ったら、パチパチ！
私の脳裏には、アッと落ちてきた羽を、すくすくアカゲラと